



平成29年6月21日号
文教大学付属小学校

研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型 アクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

今年度第二回目の校内研究を行った。今年度研究主題である「学ぶことを楽しむ！～文教大学付属小学校型アクティブラーニング 学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～について研究を重ねてきた。

第二回目は6月21日に本校初めての生活科の研究授業を行った。1年2組は、『きれいにさいてね わたしのはな』を神嶋教諭が、2年1組は、『めざせ 生きものはかせ』を太田教諭が行った。



1年2組は「植物の成長

を観察し、気付いたことや考えたことなどを多様な方法で表現する」というねらいに沿って授業が展開され、児童が5月半ばから育てているアサガオを対象に諸感覚をつかって観察したことを観察カードに記入していった。2年1組は「捕まえてきた生きものたちの生息環境からすみかを考え、生きものによりよい飼育環境に気付く」というねらいに沿って展開され、それぞれが捕まえた生きものがどうしたらより生き延びられるかを、生きものを見つけた場所から考えていった。

講師の先生は、立正大学の清水一豊先生をお招きした。清水先生は協議会で、生活科で重視されている「気づきの質を高める指導」についてお話をしてくださった。児童は何もわからないところから、教師側のアプローチによってまず個別の気づきがあり、またそこから教師がアプローチをすることで関係的な気づきが生まれ、まとまりのある気づきへと向かう三段階の流れを経ることがわかった。また、子どもたちの体験活動は、その後の人生に大きく影響することもデータからわかっており、さらにその段階というのは子どもが小さいときに踏むのがよいことだということがわかった。体験活動では、子ども自身が試行錯誤して繰り返し活動することによって自発的な問いを促し、問いの連鎖によってより高度な学びをつくることができると伺った。

今回、初めて生活科の研究授業を行って3年生からの社会科と理科につながる生活科の学習の在り方を教職員全員でつくっていききたいと思う。

